

協働して支援の目標や計画を議論する過程であり、ケアマネジメントの展開点として機能する場」と定義し、個別支援会議の運営指標を明らかにしている。その運営指標は、ケア会議の開催案内は適切な方法で周知された等の12項目の構造項目群、利用者の生活歴を把握できた等の11項目の内容項目群、早急に解決すべき生活課題が明確になった等の16項目の結果項目群、意見の対立を恐れずに発言できた等の7項目の技術項目群で構成されている。今後、ケアマネジメントの各プロセスに関する研究結果が待たれるところである。

人材養成に関する研究は、まだ出発したばかりで、社団法人日本精神保健福祉士協会の「良質な相談支援を支える地域のしくみ作りに関する人材育成研修プログラム開発」<sup>5)</sup>や社団法人日本社会福祉士会の「障害者相談支援専門員の継続研修の必要性とプログラム構築に関する研究」<sup>6)</sup>の職能団体の研究報告がみられる。今後、人材養成を包括的にとらえ、相談支援専門員に必要な能力はなにか、その研修システムはどうあるべきか、OJTやOFF-OJT等職場での人材養成も視座にいたれた研究が望まれる。

#### IV. 今後の障害者ケアマネジメントの課題

今後、障害者ケアマネジメントが発展するためには、実践面での臨床データの蓄積、困難事例・人材養成・ケアマネジメントの各プロセス等の研究が盛んになる必要がある。そのような研究成果をベースにしながら、制度改革を実行すべきであ

る。制度と実践は常に緊張関係を維持し、制度に振り回されることなく、よりよい制度を構築するために、実践的な研究を実施するべきであろう。平成21年6月15日に日本相談支援専門員協会がNPO法人の認可を受けた。職能団体として、利用者主体のケアマネジメントのあり方を研究面・制度面で推進することが期待される。

#### 【文献】

- 1) 西尾雅明：ケアマネジメント・アウトカム評価研究；厚生労働科学研究費補助金 障害保健福祉総合研究事業（主任研究者野中 猛）障害者ケアマネジメント評価および技術研修に関する研究（2006年）。
- 2) 野中 猛，ほか：ケアマネジメント技術を評価する尺度の開発に関する研究。みずほ福祉助成財団報告書（2006）。
- 3) 大島 巖，平岡公一，森 俊夫，元永拓郎監訳：プログラム評価の理論と方法。Peter H. ROSSI, Mark W. LIPSEY, Howard E. FREEMAN; EVALUATION: A Systematic Approach Seventh Edition, 日本評論社, 東京（2005）。プログラム評価理論が具体的かつ詳細に解説されている。
- 4) 坂本洋一，ほか：障害者ケアマネジメントのモニタリングおよびプログラム評価の方法論に関する研究；平成20年度総括・分担研究報告書，厚生労働科学研究費補助金障害保健福祉研究事業（2009）。
- 5) 社団法人日本精神保健福祉士協会：良質な相談支援を支える地域のしくみ作りに関する人材育成研修プログラム開発。平成19年度障害者保健福祉推進補助金事業（2008）。
- 6) 社団法人日本社会福祉士会：障害者相談支援専門員の継続研修の必要性とプログラム構築に関する研究事業報告書。平成20年度障害者保健福祉推進事業（2009）。

